

令和3年度第1回
早稲田大学所沢校地B地区自然環境評価委員会

会 議 次 第

日時：令和3年11月29日（月）

15時30分～

場所：早稲田大学所沢キャンパス
100号館5階第一会議室

1. 開会・あいさつ

2. 議 事

(1) 前回評価委員会議事録の承認について

(2) A地区における照明施設環境アセスメントへの対応について

(3) B地区におけるモニタリング調査の結果について

(4) その他

3. 閉 会

令和3年度 第1回早稲田大学所沢校地 B 地区自然環境評価委員会

日時：令和3年11月29日（月）15時30分～18時00分

場所：早稲田大学所沢キャンパス 100号館 5階第一会議室

出席委員：A 委員長、B 委員、C 委員、D 委員

1. 開会・挨拶

○評価委員会事務局（E）：それでは、皆様お揃いのようなので、「令和3年度第1回早稲田大学所沢校地 B 地区自然環境評価委員会」を始めさせていただきます。改めまして、本日はご多忙の折、ご参加いただきましてありがとうございます。B 地区も晩秋と言いますか初冬の時季となり、狭山丘陵の豊かな自然環境の現場を見ていただいたかと思えます。昨年の評価委員会の時も、ちょうど晩秋の頃だったかと思えますが、B 地区の雑木林を一年振りに見せていただいて、その時には「ナラ枯れ」については、それほど目立たなかったように思うのですが、本日 F さんから説明して頂きまして、赤いテープがたくさん巻いてあるのを見て、非常にこれはどうしたものかと思ったわけです。特にショックだったのは、「吹っぱり池」のところに大きいコナラの大木がありますが、確かこの評価委員会でも 5、6 年前だったかもう少し前だったかに現場で確認しています、オオタカが営巣していた大きなコナラも赤いテープが巻いてあり、あのコナラすらも枯れてしまうのかなど。F さんをはじめとして早稲田大学の方々に、A、B 地区の豊かな自然環境を守るという大学の役割をずっと担っていただいているわけですが、これらの新たな課題も評価委員会の中でご議論いただいて、適切な管理が必要になったのかなど改めて思いました。本日の議事に先立ちまして、この 6 月から総務部長が G 総務部長から H 総務部長にお替わりですので、H 総務部長からご挨拶いただきたいと思えます。よろしく願いいたします。

○早稲田大学総務部長（H）：ただいまご紹介頂きました、早稲田大学総務部の H でございます。日頃から本学の諸活動について、ご理解ご協力賜りまして誠にありがとうございます。また本日はご多用の中、先生方にはこの場にご出席いただきまして、重ねて御礼申し上げます。先程、E 様からご紹介いただきましたが、本早稲田大学所沢校地 B 地区自然環境評価委員会は、通例年 2 回開催されております。本日は今年度の初回ということで、この所沢キャンパスで開催させていただくこととなりました。先程、B 地区のみならず A 地区の陸上競技場脇にごございます湿地帯につきま

しても、ご視察いただきました。私は初めて拝見いたしました。途中 F からの説明もあったように、幾度となく「絶滅危惧種」という話も出ておりました。私も途中で何気なく葉っぱをひっくり返してみると、テントウムシが止まっていたりと、改めてこの場所は自然が大変豊富に残った貴重な場所だと認識した次第でございます。これから、この B 地区の自然環境につきまして、先生方から豊かなご経験と専門の立場から忌憚のないご意見・ご指摘をいただければと考えております。なお、ご承知の通り本キャンパスとしては、先般行われました「東京 2020 オリンピック・パラリンピック」におきまして、イタリア国の代表選手団の事前キャンプ地ということで使用されておりました。このことがありまして、とりわけ陸上競技場の照明施設につきましては、昨年から大学として 3 回にわたる試験点灯を行いまして、使用の影響に対する環境保全対策を検討・実施してまいりました。結果として、当該施設は使用されなかったということではございますが、今後のことも含めまして、これまで本学の自然環境調査室が取り組んでまいりました環境保全対策につき、本委員会でのご意見・ご指導を頂戴できればと思っております。簡単ではございますが、冒頭の挨拶とさせていただきたいと思っております。本日はどうぞ、よろしくお願いいたします。

○評価委員会事務局 (E) : H 総務部長、ありがとうございました。本日の委員会ですが、委員の先生方の中で I 先生がご都合で欠席となっております。それから、オブザーバーで埼玉県みどり自然課からも毎回来ていただいておりますが、欠席ということになっております。議事に先立ちまして、資料の確認をさせていただきます。封筒に入っているもので、評価委員会の会議次第が A4 で 1 枚、前回の評価委員会の議事録についても、事前に委員の先生方には送っておりますけれども、本日も改めて資料に入っております。それから A 地区における照明施設環境アセスメントへの対応について、A4 で 2 枚、B 地区におけるモニタリング調査の結果についての資料、自然環境調査室でご用意いただいた、クリアファイルに入った資料があります。この 5 種類ですが、過不足等ございますか。特にないようですので、これからの議事については、A 委員長にお願いしたいと思っております。A 委員長、よろしくお願いいたします。

2. 議事

(1) 前回評価委員会議事録の承認について

●A 委員長：皆様、フィールドではお疲れ様でした。久々に現場を見させていただいて、

まさに自然は生き物なので、徐々に変わっていているなというのを実感できました。先程見せていただいたことを頭に思い浮かべながら、ご説明をお聞きしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。さっそく議事の「(1) 前回評価委員会議事録の承認」について、ご説明をお願いいたします。

○評価委員会事務局 (E) : はい。これにつきましては、2 週間ほど前に各委員の先生方あるいは県と市にも送っておりますが、本日までの間では追加・修正等の申し出はありませんでした。特になければ、ご承認いただくということになります。よろしくお願いいたします。

●A 委員長 : 記載内容に気になることや修正などはございましたでしょうか。大丈夫でしょうか。そうしましたら、ご承認いただいたということにいたします。

●A 委員長 : それでは 2 番目の「A 地区における照明施設環境アセスメントへの対応について」のご説明をお願いいたします。

(2) A 地区における照明施設環境アセスメントへの対応について

早稲田大学自然環境調査室 (F) : 説明省略

評価委員会事務局 (E) : 説明省略

【質疑応答】

●A 委員長 : ご説明ありがとうございます。今の内容に関してご意見・ご質問がありましたらお話しください。いかがでしょう。環境アセスメントへの対応については、特にご意見は無いようですが、事務局よろしいでしょうか。

○評価委員会事務局 (E) : この委員会でも足掛け 3 年にわたってご議論いただいて来ましたが、結果として照明施設は使われなかったということで、今年度を持って環境アセスメントを終了することに関して、確認書を取り交した 4 者では合意したことを、この場でも確認させていただきます。それと、資料の最後に参考として添付しましたが、LED ライトは昆虫に対して影響が生じるとの新知見が明らかになりましたので、情報共有させていただきます。

●A 委員長 : ありがとうございます。この LED ライトの結果は少しショックですね。LED は大丈夫だとインプットされていたもので。ありがとうございます。この件に関するご意見・ご質問は他にないでしょうか。

○評価委員会事務局（E）：A 地区の経緯とは別に、調査関係で自然環境調査室が「葛入湿地」に夜間自動カメラを設置して調査していますので、その結果を F さんから、A 地区関連としてご報告させていただきます。

●A 委員長：はい、ではよろしくお願いたします。

早稲田大学自然環境調査室（F）：説明省略

●A 委員長：ありがとうございました。今の哺乳類等の報告でご意見・ご質問ございますか。いかがでしょうか。ちなみにイエネコは模様で個体識別できるはずですが、いかがですか。

●早稲田大学自然環境調査室（F）：映像の中でおよそ個体が識別できるものは 3 頭います。黒っぽいものとトラ柄のものと淡い灰色のようなもの、3 種類です。

●A 委員長：不明な個体もいますか。それ以外もいそうか、どうでしょうか。

●早稲田大学自然環境調査室（F）：その 3 頭以外ですと画像が不鮮明な個体が確かにいますが、頻度はそこまで高くはありません。繰り返し出てくるのは 3 頭かなとは思いますが。

●A 委員長：ありがとうございました。他はいかがでしょうか。外来種はどう取り扱ったらいかがが課題ですね。

●早稲田大学自然環境調査室（F）：アライグマについては、B 地区では所沢市から協力依頼を受けて公有のワナを設置しています。今回これだけアライグマの撮影頻度が高くなると、「葛入湿地」でもかなり捕獲効率が高い可能性があります。B 地区だけでも所沢全体の捕獲数の 6 分の 1 程度の数になっていたと聞いています。ここでも同規模の成果が上がるかもしれません。

●A 委員長：参考までにですが、イエネコの件について横浜市の寺家町というところに自然を観察できる空間があって、そこで長年、鳥の調査を含めて行われているのですが、イエネコがたくさん出てきて、イエネコ対策をされているグループが捕獲して去勢して放すということを何年か続けてやったのですが、それで結局個体数ゼロになりました。他には保護して懐かせて里親さんに出すという、実は私も手伝っているのですが、そういうことをされているので、イエネコについては何かしら有効な対策があるのかなという気がいたしました。参考までに。他はいかがですか。よろしいですか。それでは、B 地区の方に移りたいと思います。ご説明をよろしくお願いたします。

(3) B 地区におけるモニタリング調査の結果について

(公財) 埼玉県生態系保護協会 (E、J) : 説明省略

早稲田大学自然環境調査室 (F) : 説明省略

- A 委員長 : 続けてのご報告、どうもありがとうございました。どこからでも構いませんので、ご意見・ご質問よろしくお願いたします。いかがでしょうか。
- B 委員 : 感想なのですが、今日 B 地区を久しぶりに歩いて F さんからご説明を受けて一番ショックだったのは、「萌芽更新」を行っているところの近くで、「ナラ枯れ」であれだけの数の高木がキクイムシにやられているのを見てやはりショックでしたね。もう一つ改めて分かったのは「萌芽更新」している若い林には発生していなかった、というのを目の当たりにして、なるほどと思いました。今後、「萌芽更新」を被害がひどいところからやられるということで、その結果を見ていきたいと思えますけれども、これは狭山丘陵全体の問題で、マンパワーとお金があれば丘陵の各所で「萌芽更新」どんどんやっていけば、ベストかなという風には思います。ただ、それは無理なので下草を重点的に刈って大きな木にして、そういう新しい雑木林像というのも、それなりに生物多様性が得られて良いのではないかと思いますけれども、やはり、どういう風にしたら最も良いのかというのを、みんなで考えていかないといけないと思います。トトロの HP に、宮崎さんの「となりのトトロ」の絵が出ているのですが、さっき出ました K さんから、あれは昭和 35 年の放棄された里山の絵なので、あれがいわゆる里山の風景ではないというのを、神奈川県の方で言われているというのを聞きまして、かといって全部をきれいに刈っていく、管理していく、どういう風にバランスを考えていくかというのはこれからの課題だと思えます。あとは、やはりヨシ原とススキ原を見せていただいて、ヨシが冬に残っているのは何年かぶりなのですが、ツルが生えてきてかなりヨシも良い状況ではない、という風に感じました。オオヨシキリの繁殖が今年もゼロだったということで、そういう管理とヨシ原の面積もあると思えますが、なかなか湿地の管理というのは難しいと改めて感じました。ススキ原の方もだいぶ刈取り等を進められていて、いろいろな野草が生えて多様化しているというのは見ていてわかりました。あと、カヤネズミとの関係で管理をどうしていくかというのはこれから課題だと思いますし、また来年の 3 月に報告があるということで、そこでまた皆さんと話し合えたらと思います。以上です。

- A 委員長：ありがとうございました。D 委員いかがでしょうか。
- D 委員：本日は、現場を見せていただきどうもありがとうございました。改めて B 地区の自然環境は宝物というか、狭山丘陵の中でも宝物というか、皆さんの努力で守られているのだなと感じました。一つだけ、先程聞かなくてははいけなかったのですが、イエネコの話なのですが、イエネコが湿地で何か悪さをしているということはあるのでしょうか。例えばカヤネズミとの関係とか、カヤネズミの巣は、冬は地上巣ですか、ネコがカヤネズミの巣を攻撃するとかしないとか、その辺の影響について分かれば教えていただきたいです。
- 早稲田大学自然環境調査室 (F)：現在までにイエネコがカヤネズミを捕獲して啜っていたり、巣を攻撃している、というような直接的な証拠は見つかっておりません。ただ、従来的にネコのハンティングの習性によってネズミ等を捕ったりする、というのはよく言われています。B 地区ではカヤネズミが生息する場所にイエネコもいる環境ですので、その影響を想定するのが自然であると今のところは考えております。先程の A 地区の報告においても同様ですが、イエネコがいない方が小型哺乳類の保全にとっては良い環境である、ということは間違いなく言えるかと思えます。
- D 委員：先程 52 種ということでしたが、目撃が結構多いですよ。少し気になっていたところ。チョウの調査で早稲田大学周辺を歩いています。湿地林の中、狭山丘陵の中で埼玉県のレッドデータのチョウを見ますと、湿地周辺だけで「絶滅危惧種」に該当するものが 11 種見つかっています。それだけ、いい環境を維持しているのだなと改めて思っています。これからも何か協力できることがあれば、させていただきたいと思えます。ありがとうございます。
- A 委員長：ありがとうございます。C 委員、いかがでしょうか。
- C 委員：B 地区の取組みは、20 年以上にわたって続いているわけですが、話を聞いているいろいろな問題提起があったことについては、様々なことをどうやって解決しているかと努力していることがすごく良く伝わってきていますし、この仕事を続けていくのが大変だと切に感じます。同時に 20 年以上にわたって、途中でいろいろこの委員会もそうですし、調査室なり組織でやっていくことが改善されながら、変更点もありながら進めてきていると思うのですが、この先のことを考えた時に、もし私が皆さんの立場で、このプログラムをあと 10 年にわたって、20 年でも良いですが、その年月を考えた時に、当然植生は変化するし環境も変化するし、最近では温暖化と呼ばれるような、雨の降り方が変わるというような、グローバルレベルでの環境の変化というのが入ってきたりする中で、果たしてどういう風にそれが変化してい

くのか、ということは当然やっていくのだと思います。一方で、それをやり続けることだけが、こういう事業をやっていることにおける目的なのかというと、多分そうではないだろうなという感じもします。では何をもって、10年、15年後の目標にしていけばいいのかというのを考えないと、このままやっても十分な部分はあると思いますが、より良い形でもっていくためには、今すぐ私の中で出せる結論ではないと思っています、3月にもあるのでまたその時にでも、こういう方向とか、コンセプトを入れたら良い形になるな、ということが出てくるのではないかと考えながら聞いていました。例えば、一つの方法としては、「ナラ枯れ」の話が出てきましたが、この辺でも「ナラ枯れ」が起きていて、関東では出てきてしまっているので、そういう時に、今、この早稲田大学のここでやっているプログラムの中で、我々はこうした結論、方向、管理をした方が良いということを、いち早く発信する。それから、このプログラムは研究としての意義があるし、学生なり学外の人たちとの協力としての意義がある。ここに出てきた結果を、他の地域や他の里山を管理している人たちに対して、こうしたら良いですよ、と提言できるのが一つの方向だと、そういうことを入れながら、このプログラムを広めていく、というのがあるという気がします。それには発信する方法というのが大事で、発信という部分については、SNSであるとかHPを使うであるとかその他いろいろな方法があると思うのですが、その部分にはそれをやれる人を配置する、Fさんにそっちもやれこっちもやれということは多分無理なので、そういう部分を大学として作ってもらうというのか、これは部長にお願いするのか分からないのですが、何かそういう形でもって、早稲田大学がこういう形でやっているというのを発信するというのが、一方で大事という感じがしています。あまり私の頭の中でも整理できていないのですが、何か考えて次のステップ、よりよい慢性的にならない、逆に言うとストレスがかかったりすることですが、自分としてやったよねということが多分出てくると思うので、そういう形で進めていけたらいいのではないかな、と思います。まとまりがないのですが、そのような感じです。

- A 委員長：ありがとうございました。このプロジェクトを今後どのようにしていくかは、Fさんからのご提案で2枚目のスライドで絵柄にされていて、非常に重要な視点でアドバイスしていただけたかなという気がします。私の方からススキ原に関して伺いたい、これはどうかなという点があるのですが、先程現場で案内された時にススキの実験区画があって、その進行方向に向かって右側、かつてススキを再生させようとしていたけれども、再生しなかったというお話でしたが、あれはどういう

背景があって、ススキ原は再生しなかったと考えられるのでしょうか。

- **早稲田大学自然環境調査室 (F)** : 校舎側の方からツタ、カナムグラ等が侵出してきてススキを倒すように繁茂してしまった事が主な原因と考えています。校舎に向かって左側のススキ群落は非常に元気なものですから、管理は冬場に 1 回の刈り取りのみで、群落維持のための個別の作業は実施しておりませんでした。そうするとススキも状況によってはかなり勢力を衰えさせてしまうようで、ススキ群落も維持のためには、夏場のツタ類等の競合草本の除去が定期的に必要になってくると考えております。
- **A 委員長** : ありがとうございます。現場で疑問に感じたことに関してよく分かりました。ススキの分析のところでも 23 ページで、やや草丈が下がる傾向があるというお話でしたが、それに対応してと言いますか、その後のご説明で 27 ページでススキ原の群落構成種が定着し増えているというお話があったので、多様性を考えるとススキの草丈が低くなるということに対応して、他の植物種がどういう風に定着しやすいのか、しにくいのかというようなところが、今後のモニタリングになると思うので、それが見ると良いのかなど。階層構造が多様化していく部分でススキが被圧して、ここの植物が花付きが良くなかった、というような問題が出てくると思うのでそれを解析する意味があるかなという気がいたしました。
- **(公財) 埼玉県生態系保護協会 (J)** : ありがとうございます。ススキの密生状態では今まで開花している群落構成種の個体がほとんどなく、植生として単調だったのが、今回の植栽試験やススキの密度管理をすることで、かなり変化が見られてきています。そのため、新しい疑問点や対象とするものが増えてきているとは思いますが、A 委員長の仰る、多様化に至る条件の要因を今後検討しながら、モニタリングをしていけたらと思います。
- **A 委員長** : F さんからご説明があった、多様性が一方通行ということではないと思うので、どこらへんが限界なのかということも検討できるような気がしました。それから、再三お話が出てきていますが、「ナラ枯れ」については全国とは言わないですが、かなり広い範囲で問題なので、事例が相当報告されて、いろいろな方策が参考例としてありそうな気がいたしますので、それをうまく活用していただければと思います。伺っていて最後のところで、玉切りにしてそれを割って、そのまま乾燥させておくというのが効果的だという話が報告されているようで、ある意味あまり手をかけないでやれそうな方法だなというので、少しほっとする部分がありました。とりとめのない感想でしたが、私の方からは以上です。どうもご報告ありがとうございます。

ございました。委員の方からの意見・感想は以上で終わりといたしまして、次はその他の議事になりますが、所沢市みどり自然課の担当の方がいらっしゃっていますので、少しお話しいただければと思います。

- 所沢市みどり自然課 (L)**：今日はフィールドと貴重な知見等を拝聴いたしまして、ありがとうございました。先程、**B 地区自然環境モニタリング調査報告**の中で少しご紹介いただいたところなのですが、市では「生物多様性ところざわ戦略」を策定しまして、今年度より生物多様性の保全と再生に関する市の取組みについて、本格的に着手し始めたところではあるのですが、実際は市では知見も経験も技術もまだまだ不足している部分がございます、そういった点では、今日お集まりの皆様の知識・知恵をお借りしながら、取組みを進めていかないといけないところなのですが、そんな中であって早稲田大学が所沢市内にキャンパスを構えられて二十年以上にわたって、こうした活動に取り組んでいらっしゃるということは、大変心強いという風を感じながら、今日お話を伺っていた次第です。少し脱線するかもしれませんが、市に限らず昨今、民間の企業等も生物多様性に関する取組みというものは、社会的責任として求められてはいるものの、市も含めてですがどうアプローチしていいのかというところが、非常に難しいのではないかと、いろいろな方のお話を聞いていて感じているところでございます。そういった中でも、早稲田大学さんと自然環境調査室の取組みは非常に社会的な意義やこれからの貢献といったところで期待できる、ますます役割の重要性が高まってきているのではないかと感じているところです。市で言いますと、今日拝見した「葛入湿地」の上流部の水源地という場所で、これからトトロのふるさと基金さんと自然再生の取組みを進めていきますし、保全地区もたくさんありますが、今日お話しいただいたように「ナラ枯れ」の被害が多数出ていて、今は対処療法的なところで追われて終始しているのですが、そこについても生物多様性を再生していくための取組みをしていかなければならない。そういった中で、ぜひ早稲田大学さんに今後お力添えを頂いて、市の生物多様性に関する取組みを進めていければ、と今日お話を伺いながら強く感じたところでございます。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

- A 委員長**：どうもありがとうございました。このプロジェクトを市に高く評価していただいて大変ありがたく思います。この取組みのやりがい、さらに増したのではないかと気がいたします。それでは、用意した議事内容はこれで終わったということにいたします。

- 早稲田大学人間科学部 (M)**：意見をよろしいでしょうか。毎年環境科の学生が 5、6 名

程 B 地区で研究しており、卒業研究や修士論文を書いておられますので、その観点からコメントをさせていただきます。「ナラ枯れ」の話ですが、卒論生が今年 B 地区で調べておりました、220 本くらい被害木があるというのを聞いています。昨年ご存じの通りコナラのなり年でしたので、樹勢が今年衰えていると言われていたときに、「ナラ枯れ」が入ったという観点で、森林総合研究所等でも議論がなされています。おおよそ今までの研究ですと最大で 4 割程度枯れると言われておりますが、実際にそれを超えるのかそれより小さいのかというのは、来年の春になってみなければわかりません。ですので被害木への対処療法も必要ですが、これは研究対象にもなり得ますので追跡調査を行うことが選択肢に入っても良いのかな、と思います。もう一つは、卒論生や修論生が学会等で B 地区の研究結果を話すとき、B 地区がどういった場所なのか、調査地の説明に少し困ります。例えば「保護区」なのか「保全区」なのかということでも、学外に向けた説明が難しいと感じています。今日のお話を聞いていて、多分保護に近いのではないかと感じて聞いていました。F さんの最初のトレードオフの図もそうかもしれません。立ち入り禁止にしているというところもあり、管理の手法としてはかなりストイックなのかなと思います。一方、それに対し、C 先生が仰ったところの、B 地区をどうしていくのか、という取り組みの背景となる長期的なビジョンが見えにくいと思っています。保護なのか保全なのかとは一言で言い表せないのかもしれませんが、どのように B 地区を使っていくのか、という大きな方向性があるのもいいのかなと思って聞いておりました。

- A 委員長：どうもご意見ありがとうございます。
- C 委員：ありがとうございます。実はこの問題は、私も途中から参加させてもらっているのですが、その時に所沢のこの場所を、大学としてどういう位置づけにしてどうするかという問題が、そういう議論があった時に一番理想的なのは、所沢で研究している先生方なり研究室の方達がここへ一緒に入ってもらって、今先生が仰った部分とかを議論して、研究という視点から見た時にここをどう位置づけるか、もっと言えばこのフィールドを使って論文を書く、そして発信するというをした時に、どうするのが一番効果的かというのを、一つの柱にすべきだということを、私は最初の時に話をしました。私は早稲田キャンパスの方において、こちらのフィールドではないので、そういう人間がここへ来ていろんな意見を言っていたのですが、その時にうまく所沢の学生や研究室とがこのプログラムに入り込んでやるのが、一番理想的だということで、そういう意味では参加いただいて非常に貴重な意見をいただけたと個人的には思います。

●A 委員長：ありがとうございました。私も学内の方々が、このフィールドを最大限活用いただくことは大賛成です。それでは司会をお返しします。

○評価委員会事務局（E）：活発なご意見をいただきまして、ありがとうございます。今お話しいただいたように、大学としても、おそらく B 地区の位置づけや在り方への今後の方向性についての学内での議論が必要だと思えます。あともう一つ、今回は「ナラ枯れ」の話が、この委員会で大きくクローズアップされたのですが、「ナラ枯れ」だけではなく今日の議論の中でも葛入湿地のイエネコの問題ですとか、あるいはアライグマ、ハクビシン等の「外来種問題」、それからホタルの発生ピークが早まっているというのも、これは温暖化の影響か厳密には分からないにしろ、こういったことで起きている環境問題というのは、おそらく首都圏、関東、全国あるいは世界規模で普遍的に起きているグローバルな問題で、その先駆けをこのフィールドでいろんな処方箋にしろ、アカデミックな観点で根拠を明確にする取組みというのが行われているだろうと。他方、一朝一夕で答えが出るような問題でもありません。この委員会は冒頭でもお話ありましたように、年 2 回開催され継続して議論していくことになると思いますので、そういった問題意識の中でさらに掘り下げていければと思います。長時間にわたり、本日は様々なご議論いただきましてありがとうございました。これをもちまして「令和 3 年度第 1 回早稲田大学所沢校地 B 地区自然環境評価委員会」を終わります。どうもありがとうございました。